

第2学年 国語科学習指導案

〔伝統的な言語文化分野〕

単元名 いにしえの心を訪ねる 扇的

場所 : 南舎1階 2年1組教室

学級 : 大野町立大野中学校

2年1組(31名)

授業者:

1. 指導の立場

(1) 単元について

古典には、現代に通じる価値観や、現代と違った、あるいは現代人が忘れてしまったものの見方や考え方が描かれている。現代語訳なども参考にしながら、昔の人の心に触れ、古典の世界を楽しむとともに、今を生きる自分たちを振り返るきっかけにしたい。

また、古典や漢文には、それぞれ特有の調子やリズムがあり、それが古典の魅力を支える要因の一つになっている。朗読を通して、その魅力を存分に味わわせたい。

以上の2点について「扇的」では、①歴史的事実の底流にある与一の心情に目を向けること、②音楽的なリズムと映像的な美しさを味わうことを目的として指導する。

①歴史的事実の底流にある与一の心情に目を向けること

沖には平家、陸には源氏、両軍が対峙する緊迫した場面で、沖の小舟に浮き沈みする扇を見事に射落とした与一の神業の華々しさが「かぶらは～ければ」の情景描写から読み取れる。また、源氏の命運を懸けたこの一矢に、死を覚悟しながら臨んだ若き与一の追い詰められた心情が「南八幡大菩薩～なつたりける」の行動描写、情景描写から読み取れる。この二つの場面を中心に与一の心情やその時の情景を読み取り、後半の「あ、射たり」「情けなし」の言葉に込められた思いや考え方について注目させたい。

②音楽的なリズムと映像的な美しさを味わうこと

「平家物語」は、琵琶法師によって語り物として人々に享受されていた。そのため対比や繰り返し、七五調に近い音律、「よつびいてひやうど放つ」「ひいふつとぞ射切つたる」などの印象的な擬音語などが多用され、通常の散文とは異なるリズムをもっている。現代の我々が普通に朗読する際にも、そのリズムを感じ取ることができるだろう。さらに装束描写や長台詞によって人物をクローズアップすることで映像的な効果を上げていることにも注目させたい。

(2) 生徒の実態

生徒はこれまでに、「いろは歌」や「竹取物語」、「今に生きる言葉」の単元を通して古典作品に親しんできた。その中で登場人物の言動を現代の自分たちと比べてたり重ね合わせたりしながら心情を想像することができるようになった。

また古典の文章について、現代の文章との違いを確かめる活動を通して、現代とは違う意味で使われている言葉や、現代では使われなくなった言葉の意味を確かめながら読むことを意識するようになった。

本時では扇的の前編と比べて「あ、射たり」と「情けなし」に込められた気持ちを読み取る活動を通して、当時の人々の考え方について捉えさせ、第4時に行うまとめの活動の根拠につなげていきたい。

2. 研究との関わり

【研究内容2】について

国語科部では、「国語で正確に理解し適切に表現する生徒」の育成を目指している。本単元では『扇的』に登場する登場人物の見方や考え方についての考えをもとに、単元を貫く課題と設定し、主体的な学びを生み出したいと考えている。生徒が登場人物のものの見方や考え方を捉えることができるように、原文や現代語訳を根拠としながら、歴史的背景も踏まえて、与一、平家や源氏の人々、義経の思いを考えることができるよう指導していきたい。また、板書やノートなどで、それぞれの立場の思いについて比較したり、整理したりしながら捉えられるようにしたい。

3. 単元構造図(全4時間)

【単元のねらい】

扇の的の場面に関する探究的な学習を通して、屋島合戦の命運を託された那須与一や「弓流し」の場面における義経の姿から表れる武将の心情についての理解を深めさせるとともに、それを読み取る技術を習得し、主体的に探究しようとする事ができる。

【単元はじめの生徒の意識】

平家物語は琵琶法師によって広められた軍記物語である。無常観を背景に平家の栄華と没落、武士階級の台頭が描かれている。

①【平家物語 冒頭部分】

課：平家物語で描かれていることは何だろう。

<ねらい>

平家物語の冒頭部分や「扇の的」の原文を朗読を通して、内容の大体や、文章の調子や響きから対比を捉えることができる。(知・技)

<生徒の意識>

平家物語には武士の生き様が描かれており、平家の栄華と没落の無常観が描かれている。

【単元を貫く課題】「扇の的」に登場する登場人物の見方や考え方に

ついでの考えをもとう

②【扇の的 前編】

課：扇を射落とすことを命じられた時、与一はどのような心境だっただろうか。

<ねらい>

扇を射落とすことを命じられた与一の様子や、扇を射落とした様子から、古人の見方や考え方を捉えることができる。(知・技)

<生徒の意識>

上官の命令は絶対であり、何としてでも扇を射落とさなければならない与一の覚悟や願いが情景描写や、言動から伝わってくる。

③【(本時)扇の的 後編 「年五十ばかりなる男を射落とす与一」】

課：「あ、射たり」「情けなし。」には、古人のどのような思いが込められていただろうか。

<ねらい>

年五十ばかりなる男を射落としたときの「あ、射たり。」「情けなし。」と言った人の思いを読み取る活動を通して、当時の人々の見方や考え方を捉えることができる。(知・技)

<生徒の意識>

命令であればそれを遂行しなければならない武士の非情さや、与一の勇猛果敢な姿がこの部分には描かれている。

④【弓流し】

課：「扇の的」での与一や「弓流し」の義経の言動に対する自分の考えをもち、交流しよう。

<ねらい>

今までの学習でとらえた登場人物の言動や「弓流し」の場面での義経の言動をもとに、個人の見方や考え方に対する自分の考えをまとめ、作品を読み深めることができる。
(思・判・表)

<生徒の意識>

自身の死よりも自身の恥が生き続けることの方が辛いと考え行動する姿は扇の的で描かれていた武士の生き様に通ずる。

【単元出口の生徒の意識】

「扇の的」と「弓流し」の場面を通して、「平家物語」を読んできた。そこには、平家の栄華と没落という「無常観」が描かれていた。また、そこに登場する当時の人々の見方や考え方からも無常観を感じた。当時は、現代の私たちと違う価値観で生きてきたのだと思う。一方、「情けなし。」と言った人には共感できたので、古典って楽しいと思った。

4 本時のねらい

年五十ばかりなる男を射落としたときの「あ、射たり。」「情けなし。」と言った人の思いを読み取る活動を通して、当時の人々の見方や考え方を捉えることができる。(知・技)

5 本時の展開

過程	学 習 活 動	研究内容について				
<p>導入</p> <p>展開前段</p>	<p>1 . 本文を読み , 前時の既習事項の確認と本時の課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当時は殿の命令は絶対であり , 与一は扇の的を射落とさなければならなかった。 ・ 義経の命令「扇を射落とすこと」であったため , 与一にはこの命令を拒否するどころか , 失敗することも許されなかった。 ・ 命令や名声は命よりも重いとされていた。 ・ 美しい情景描写から敵 , 味方関係なく , 認め合い , ほめたたえ合う気持ちが読み取れた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「あ、射たり」「情けなし。」には、古人のどのような思いが込められていたでしょうか。</p> </div> <p>2 . 「情けなし。」と言ったものの思いに触れ , 当時の人々の考え方 , 感じ方に触れる (個人追究 全体交流)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">「あ、射たり。」</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">「情けなし。」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手が自軍の行いに感嘆していても , 戦場であるから命令を下した義経の行動に当時の武士の考えがある。 ・ 例え自分に対し感嘆を表す舞を踊ってくれていても義経の命令は絶対だから , 与一も覚悟したと思う。 ・ 今回はかぶら矢ではなく , 中差を使ったところや十分に引き絞ったところに覚悟を感じる。 <p>四十間余り離れた男の首を見事に射落としたことや , 一度ならず二度までも難しい試練に立ち向かう与一に対し感嘆した。</p> <p>これは源氏側の声だと思う。</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年五十ばかりなる男は相手が敵であっても , 扇を射落とした与一を褒め称えて舞ったのにひどい。 ・ 前時までの場面では戦いを忘れて両軍感嘆していたのに , いきなり戦いの最中に入っていくところに源氏の非情さを感じる。 ・ 「平家の方には音もせず」からびっくりして静まり返った様子がわかる。 ・ さっと射ていることから非情さを感じる。 <p>敵味方関係なく素晴らしいことに関して舞を舞っていたのに , ここで射落とすように命じた義経に対して , またその命令を遂行する与一に対しても非情さを感じたと思う。</p> <p>平家側の声だと思うが , 源氏側にも非情さを感じた人がいたと思う。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	「あ、射たり。」	「情けなし。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手が自軍の行いに感嘆していても , 戦場であるから命令を下した義経の行動に当時の武士の考えがある。 ・ 例え自分に対し感嘆を表す舞を踊ってくれていても義経の命令は絶対だから , 与一も覚悟したと思う。 ・ 今回はかぶら矢ではなく , 中差を使ったところや十分に引き絞ったところに覚悟を感じる。 <p>四十間余り離れた男の首を見事に射落としたことや , 一度ならず二度までも難しい試練に立ち向かう与一に対し感嘆した。</p> <p>これは源氏側の声だと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年五十ばかりなる男は相手が敵であっても , 扇を射落とした与一を褒め称えて舞ったのにひどい。 ・ 前時までの場面では戦いを忘れて両軍感嘆していたのに , いきなり戦いの最中に入っていくところに源氏の非情さを感じる。 ・ 「平家の方には音もせず」からびっくりして静まり返った様子がわかる。 ・ さっと射ていることから非情さを感じる。 <p>敵味方関係なく素晴らしいことに関して舞を舞っていたのに , ここで射落とすように命じた義経に対して , またその命令を遂行する与一に対しても非情さを感じたと思う。</p> <p>平家側の声だと思うが , 源氏側にも非情さを感じた人がいたと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの扇の的の場面を掲示し , 振り返り , 当時の武士にとって命令や名声が命よりも重いものであると復習し , 今回の場面を読み取る際の足掛かりとする。 【研究内容2】 ・ 対句表現や前場面との読み比べを通して , 与一だけでなく , そこにいた人々の思いについて言葉を根拠に読み取る。また全体交流の場でもどの言葉からどんなことを感じたのか , なぜそう感じるのかを説明できるように発表の仕方を掲示する。 【研究内容2】 ・ 「あ、射たり。」と「情けなし。」と言った理由を比較できるようにまとめる。比較したものから , それぞれの見方や考え方の違いを捉えながら , 思いを捉えることができる。 【研究内容2】
「あ、射たり。」	「情けなし。」					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手が自軍の行いに感嘆していても , 戦場であるから命令を下した義経の行動に当時の武士の考えがある。 ・ 例え自分に対し感嘆を表す舞を踊ってくれていても義経の命令は絶対だから , 与一も覚悟したと思う。 ・ 今回はかぶら矢ではなく , 中差を使ったところや十分に引き絞ったところに覚悟を感じる。 <p>四十間余り離れた男の首を見事に射落としたことや , 一度ならず二度までも難しい試練に立ち向かう与一に対し感嘆した。</p> <p>これは源氏側の声だと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年五十ばかりなる男は相手が敵であっても , 扇を射落とした与一を褒め称えて舞ったのにひどい。 ・ 前時までの場面では戦いを忘れて両軍感嘆していたのに , いきなり戦いの最中に入っていくところに源氏の非情さを感じる。 ・ 「平家の方には音もせず」からびっくりして静まり返った様子がわかる。 ・ さっと射ていることから非情さを感じる。 <p>敵味方関係なく素晴らしいことに関して舞を舞っていたのに , ここで射落とすように命じた義経に対して , またその命令を遂行する与一に対しても非情さを感じたと思う。</p> <p>平家側の声だと思うが , 源氏側にも非情さを感じた人がいたと思う。</p>					
<p>展開後段</p> <p>終末</p>	<p>3 . 本時のまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>扇を射落としたことに敵ながら感嘆し , 舞を舞った年五十ばかりなる男。これに対し , 相手が例え自分のため , 自軍のために舞を舞っていたとしても命令を遂行して男を射落とした与一の覚悟を感じる。これを見た人々が「あ、射たり。」「情けなし。」と言っていたことから , この与一や源氏側の命令に対しては様々な考え方があったようだ。</p> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価規準【知識及び技能】 古文や現代語訳の言葉に着目したり , 前時までに読み取ったことを根拠にしたりしながら , 当時の人々の見方や考え方を捉えている。 (ノート記述・発言内容)</p> </div>				